

本日、登場するノア、アブラハム、サラは、共に、信じにくい中で神の御言葉を信頼して従った人々。
その姿から私達も学ばせていただきたい。

I ノアの信仰。

「信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました」：7。

1. まだ見ていない事柄（将来の神のさばきによる大洪水）について神から警告を受けた時、すぐに従い箱舟を造った（創6：22）。

これは、私達の現実には当てはめるなら、大変な信仰がいる事が分かる。

①まず、晴れた日が続く中、そんな山々をおおうような大洪水が実際に起こる（目で見えない）と信じるのは簡単ではない。

②次に、世の人々の軽蔑の目にも耐えなければならない。箱舟を造るのに当然、木材がいるから、海辺ではなく、山で造っただろう。それも、普通の舟ではない。箱舟である。大きさも、長さが約132m、幅が約22m、高さが約13mである。決して小さな舟ではない。ノアの時代の人々は、どう思っただろう。「おーい。ノアは気が狂ったぞー。洪水が起こると言っている。本気で、そんな事を信じてやがる。こんなに晴れているのに」という声が聞こえてくるようだ。

しかし、ノアは、人目を気にせず、神のみことばだけを信じて、忠実に造り続けた。大変な日数、歳月、労力がかかっただろう。彼は、人ではなく、神ご自身を恐れかしこんだ。

私達も、本気で神を信じ従って行く時、世の人に認められるどころか、かえって、ばかにされたり、反発を喰ったりする。

私達も、ノアの箱舟に当たる現代の救いの箱舟＝イエス様を信じている。

そして、ノアの洪水に当たる将来の主の再臨と神の公平な最後の審判を本気で信じている。

この事は、世の人にとっては、ばかげた事である。

しかし、ノアの洪水が実際に起こったように、神の最後の審判も確実にある。

まだ、救いの箱舟であるイエス様を信じていない方々は、間に合ううちに主を信じ救われて頂きたい。

私達は、ばかにされ迫害されても、人々の救いのために、人々を愛し、主を伝え続けたい。

クリスマスに、お誘いたい。

2. 「家族の救いのために」：7。

彼は家族を愛し、その救いの為に熱心に労した。私達も見習いたい。自分だけ天国に行く事にならないように、家族の為に日々祈り、愛を示し、へりくだって、主を伝え、クリスマスに誘いたい。

使徒16：31を信じて。

3. 「その信仰によって世を罪ありとし」：7。

ノアが神のみことば通り箱舟を造る事は、それを信じ、箱舟に入る人には救いであるが、それを信じない人々の罪を示す印ともなった。

一つは、神の警告を信じない罪、もう一つは、救いの箱舟なしには、その世は、滅ぼされなければならないほど、世の罪は深かったという事。創世記6：5。

主の十字架も、それを信じる人には救いの印であり、もう一つは、罪のない主が身代わりに死ななければならないほどに私達、世の罪は深かったという印。

4. 「信仰による義を受け継ぐ者となりました」：7。

人が主によって義（正しい、無罪）と認められる（神との正しい関係の回復）のは、行いによらず、神への信仰による。そして、その信仰が本物なら、ノアのように、神のみことばを実行する。

Ⅱ アブラハムの信仰。

1. 「信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときにそれに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました」：8。

私達にも、神は先の事をすべて示して下さるわけではない。

大切な事は、先の事がすべて分からなくても、その時、その時、一步一步、示して下さる主の導きに従う事である。主の御手の中にある身には平安がある！

2. 「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束を共に受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました」：9。

彼は、約束の地、カナンでも他国人のようにして住み、天幕生活をした。

彼は、土地の人々から「あなたは私たちの間にあって、神のつかさです」（創世記23：6）と言われるほど、地に根ざした生活をした。しかし、庶民とかけ離れた豪邸に住むのではなく、天幕生活をした。つまり、彼は、10節にあるように神が「堅い基礎の上に建てられた都」＝天国を忘れず、待ち望んで生活をした。ここに良きバランスがある。

人々から尊敬されるほど社会的責任を全うしつつ、同時に、この世にのみ心を奪われる事なく、神を礼拝し、目に見えない天の都、天国を待ち望んでいた。私達も、このバランスを模範にしたい。

Ⅲ アブラハムとサラの信仰。

1. 「アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです」：11。

「彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ、『あなたの子孫（主を信じる私達を含む）は、このようになる』と言われていたとおり、多くの国民の父となりました。彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした」（ローマ4：18，19）。

2. 実は、このアブラハムもサラも最初から立派な信仰を持っていたわけではない。

神の約束をいただいた時、アブラハムは笑った（創17：17）。サラも笑った（創18：12）。

では、今日の箇所と矛盾するのか？

いや、彼らは、最初の不信仰を悔い改めたのである。

そして、日々、疑う心、不信仰と戦いつつ、不可能に見える中で、全能の神を信頼する者へと成長させられて行った。私達の信仰も、神は、成長させられる。試練を通して。

3. これは、弱い私達への励ましである。

私達も、不信仰になったりする。しかし、そんな私たちを、神は見捨てられない。アブラハムとサラを忍耐して下さり、成長させられたように、私達にも最善の恵みを下さる。私達の願い通りでなくても、最善をなされる。

4. アブラハムとサラは夫婦であり、一体である。この夫婦の信仰が一つとなり、不可能に見える中で約束の子が与えられた。

片方が、弱っている時、片方が、神を信頼し、祈り支える。ある時は、逆に支えられる。夫婦は一体で、必ず片方の影響を受けている。

夫婦が、教会全体が、同じ信仰で、どんな時にも神を信頼して行く時、神は、人知を越えた大きな御業を成して下さる。

5. 私達には、アブラハムやサラのように「死んだも同然」のような希望がないような状況がやって来る。

しかし、そのつらい状況も神が支配しておられる。そこに、全能の神が私達と共におられる。失望してはならない。このお方に信頼し、抛り頼みつつ歩もう。

「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1